旧大川小校舎の案内で押さえておくべき数字

2017.5現在

津波で止まった時計

校門脇にあった碑、海抜1m12とある

3.8km 海からの距離。海抜は1.1m

108名 当時の全校児童数。校庭にいたのは77、8名と言われている。

74名 犠牲になった児童数
死亡70　行方不明4

津波到達点

10名 教職員の犠牲者数
校庭にいた11人中

9度 毎年3月にシイタケ栽培の体験学習を行っていた山の傾斜

2階の天井に波の跡

51分 14:46 地震発生 から
15:37 津波到達 までの時間

8.6m 大川小を襲った津波の高さ
（海抜9.7m）
2階教室の天井に跡がある。

1分 避難した時間。山ではなく川に向かった。
距離は先頭の子で約150m

2011年３月11日　14:46 地震発生 15:37津波到達

児童74名　教員10名が死亡･行方不明（全校108名 校庭にいたのは児童78名　教員11名 ）

1 子どもを救う方法はあった。

体育館脇の山は傾斜が緩く、低学年でも登れる。毎年３月に椎茸栽培の体験学習も行われていた。校庭脇の山でも授業が行われていた。
５分もあれば、入釜谷方面への避難も可能。スクールバスもすぐ出られるように待機していた。地震から津波到達までは51分。地震による倒木はない。

2 地震発生後、校庭に避難し点呼。津波が来るまで校庭待機。

３時前後には、ここまで津波がくるだろうという情報があった。大丈夫だろうという意見もあったが、裏山への避難を進言した子ども、教員、地区の人、迎えに来た保護者がいる。指揮台の上にあったラジオも盛んに大津波警報、高台への避難を連呼していた。市広報車は３時25分頃に避難を呼びかけ通過している。

3 移動時間は約１分。民家裏の細道を通り、川に向かっている。

校庭から移動を開始したのは大津波がいよいよ迫って、川からはすでに水があふれていた時である。「三角地帯へ移動」という指示で移動開始。「もう津波が来ているから、急いで」と言われ、児童の列は自転車小屋の脇から出て、あわてて裏道の方に走り、民家の脇を通り、県道に出ようとしたら川から波が来た。児童が追い込まれたのは、最も狭く、山の斜面も急な場所である。
校庭から移動した距離と時間は先頭の子で約150m、１分ほど。